

## 第九部門 (共通教育 A 棟 202)

### 辺境とジェンダー

#### コロンビア (アメリカの女性表象) の変遷

武田 貴子

辺境とは、中央からの視線にある。アメリカもまた、辺境から中央へと変遷し、その視線にある辺境も変化する。今回 4 つのアメリカの女性表象を取り上げることで、その変遷を分析する。植民地時代のアメリカは大英帝国の辺境であった。ベルギーの画家・エッチング作家 Adrien Collaert の「4 大陸」(1588-89) に描かれたアメリカは、アルマジロに乗った裸の女性表象 (インディアン・クィーン) である。独立したアメリカは、中央としての国家認識を持ち始めるが、女性表象にはインディアン・クィーンの残滓をまだまとっている。ワシントンの国会議事堂上の「自由の像」(1863) はそのことを如実に語っている。1872 年の「アメリカの進歩」は馴染みのある絵画であるが、西部がアメリカの辺境であることを、描かれた白人の女性表象が雄弁に語っている。1893 年のコロンビア博覧会の中央にあった「共和国の像」は、ローマ風の衣装をまとった白人女性が、右手にアメリカン・イーグルのつかむ地球を掲げており、帝国主義的な視線が世界に向けられていることが示唆されている。以上のアメリカをあらゆる女性表象の変遷を、画像をもとに分析する予定である。